

第41回 札幌市PTA広報紙まつり 審査評

平成31年2月18日(月)

■目を見張る「高い取材力」と「PTAの主張」

応募くださった関係の皆様、誠にお疲れ様でした。また、各賞を受賞されました関係の皆様、おめでとうございます。手作りの部、オフセットの部とも目を通しましたが、大変魅力的な広報紙ばかりでした。前回から見られたマガジン風の表紙やレイアウト、デザインなど、斬新な感覚を基にした試みも継続され、どの作品からも「高い取材力」と特集を通した各「PTAの主張」が伝わってきました。

■意識されてきた審査「3つの観点」

①PTA活動の紹介②積極的な企画性・アイデア③全体（見やすさ・読みやすさ）のバランスの3つの観点で審査いたしました。

①PTA活動の紹介に工夫があります！

写真やイラストを使い、インタビューなどで紹介していました。ある作品では、見開きカレンダーで年間の活動をビジュアルに表していました。自校のPTA活動をみつめ直した会員もいたことでしょう。Q&AやYES&NO形式を取り入れた作品も印象に残りました。PTA会長と校長との本音トークやPTAと地域との連携を語るという内容を対談形式で簡潔にまとめていました。いずれも、②の豊かな企画・アイデアを取り込んだものと理解しました。

ただPTA活動の紹介には、「参加しましょう」と、PTA活動啓発や一人一係などへのお誘いの言葉が入りがちです。「やってみたら楽しい」とアピールするか、活動紹介にとどめるのがよいのではという審査委員の声もありました。

②積極的な企画性・アイデアに脱帽です！

北海道胆振東部地震を受けて、防災特集や緊急アンケートを組んだり号外を出したりした作品もありました。地震当日の様子を写真付きで掲載し、学校の動きを時系列で追い、学校避難所の救援物資も取材するなど、保護者目線で学校や地域の防災体制を考えるという企画でした。区役所職員にも取材し、自治体の持つ確かな知識と併せて特集するなどマスコミ顔負けの見事な取材力です。

ブラックアウト時の生徒を特集していた作品。緊急時における生徒の頑張る姿を見て「我が子の成長を感じた」というほほえましい保護者の記事には思わず心温まりました。緊急アンケートでは、その分析から「人のつながり」を特集し、防災意識の啓発につながったことでしょう。

③「全体の統一感」が読みやすくなる近道です！

読み物には「統一感」が必要です。印刷前に、目次、号数、校(園)名、頁などを確認します。全体を見て、頁ごとのデザインやレイアウトを揃えると統一感が強調され、読みやすい紙面に仕上がります。内容はそのままに、頁の枠や色合い、雰囲気などに共通性を持たせ、レイアウトに統一感を出すだけで変わります。担当の先生か印刷会社に「統一感」を相談してみるのも一つの方法です。

■今後も「会員ファースト」の広報紙を！

文字情報が多い広報紙も目立ちました。企画で全体構成を明らかにし、レイアウトにゆとりをもたせてはいかがでしょうか。前述のように、技術面では要望を伝え、先生や印刷会社の助言をもらう方法もあります。学校と地域を結ぶ橋渡しとしての広報紙の役割は重要です。会員の要望をもとに、「読み手」を意識した紙面を工夫し、会員ファーストの広報紙作成を願っています。

手作りの部の編集後記に、こう書いてありました。「私は子育てでよく悩むタイプです。(中略)なのでそんなお母さんがいたら、励まされる、気持ちが楽になれるようなものにしたいと思い、作業を始めました。しかし、書いている上で、私自身が気持ちの整理をさせてもらっていることに気付きました。このような機会を頂けて、よかったです。」広報紙づくりを通して、「作り手」としても保護者としても成長されているのですから素晴らしいことです。心から敬意を表します。

応募数は年々減ってきてはいますが、それでもこれだけ応募作品があるのですから次回も期待しています。ご尽力いただいた札幌市PTA協議会事務局並びに広報委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

審査委員長 村上 直史（北海道通信社 参与）